

2020年度 関西大学大学院東アジア文化研究科活動報告

1. 院生合同学術研究大会

院生合同学術研究大会とは、関西大学大学院の院生が各研究科において、研究成果を発表するものである。本東アジア文化研究科では、2020年11月26～27日に開催し、博士課程前期課程5名、博士課程後期課程7名、計8名が発表した。

また、外部講師による講演も行われ、早稲田大学文学学術院教授 森由利亜氏をお招きし、「清朝全真教龍門派アイデンティティの形成」と題した講演が行われた。

本大会で東アジア文化研究科は、院生による司会制を導入し、院生が主体となる研究発表大会を目指した。その結果、院生同士による活発な意見交換が行われ、各発表者のみならず発表を聞いていた院生も、今後の研究において良い刺激を得ることができた。

これら発表の一部は論文にまとめられ、本書やその他の学術雑誌に掲載されている。

氏 名	題 目
高 絵 景	『東山清音帖』における八景の配列順序について
沈 和	『察世俗毎月統計伝』、『地理全志』と『新釈地理備考全書』に見られるヨーロッパ地名の変遷
鄒 王 番	清末民初来华传教士汉语学习方法探析——以英文期刊《教务杂志》(The Chinese Recorder) 为中心
顔 龍 龍	民国初年青森格与“满洲租借”关系之考察
韓 莉	梁漱溟の唯識研究（二）——内的理論構造をめぐって
陳 暁 淇	夏日漱石『吾輩は猫である』の中国語訳について
西 口 友 容	清代康熙朝における康熙朝の鄭氏台湾政權への対応について
王 婷	日中近世告示の語体とその形成背景
邱 吉	民国初期廉泉与日本艺坛的互动
劉 明 鎔	明代士人の和物趣味と対日認識
蔡 林 汐	御宝からみた朝鮮における自認識の変化
王 芸 ブ ン	北宋时期文人绘画中的文人审美意象

2. 2020年度 東アジア院生フォーラム

2020年12月16～17日に「2020年度 東アジア院生フォーラム」が開催され、関西大学が中心となり、東アジア文化研究科の院生16名、各自の研究成果の一端を発表した。

氏 名	題 目
鄒 王 番	美国来华传教士潘慎文汉语学习研究
井 上 史 美 菜	訓民正音と世祖代の仏教政策
劉 存 軍	清末期における山西商人と常氏一族
梁 灝	劉智思想と儒教文化の文化交渉——「三綱」と「五典」を例として
袁 帥	メトロリンガリズムの視点からみた多言語景観の分類について
喬 昭	『伊朔譯評』と『意拾喻言』の対比研究——教訓における「西学東漸」を中心に——
陳 路	室町中期五山禪林における朱子学の受容——『史記桃源抄』を中心に
蔡 林 汐	1881년 고종어보의 폐기와 신주에 대한 고찰
東 延 欣	増田涉直筆注釈本にある図解に関する考察
沈 和	关于玛吉士和《新释地理备考全书》的研究
王 婷	日中近世の告示語体と民衆識字——庶民は告示を読めるのか
張 亜 敬	日本學界羅振玉研究綜述要旨
王 超 恒	二十世紀前半における『通俗三国志』の考察
劉 陽	田中貢太郎訳『聊齋志異』における会話文の特徴
鍾 陽	清朝中後期における漢軍旗人の生計問題
陳 莉 莉	京都大興寺関帝像について

3. 東アジア文化交渉学会第12回年次大会

東アジア文化交渉学会第12回大会は、2020年11月8日に鄭州大学漢字文明研究センター主催の下、「文化交渉媒質としての漢字：伝播と影響」をメインテーマに、漢字と漢籍の伝播、東アジア、ないし世界文明への影響を中心に研究発表を行う。

院生参加者：劉洋、陳莉莉、曹悅、康佳琦、邢繼萱、邱吉、顏龍龍、張子康、李思漢、王婷、袁帥、葛松、張天皓、李玉、喬昭、鄧怡然、劉陽、東延欣、陳旭、韓莉

投稿規定

1 適用の範囲

この規程は『文化交渉 東アジア文化研究科院生論集』（以下『院生論集』）への投稿について適用する。

2 掲載の範囲

『院生論集』には、論考、研究ノート、資料紹介、訳注、書評その他の情報を掲載する。

3 原稿の募集について

- (1) 締め切りはその都度定める。
- (2) 原則として、各号に1論文とする。

4 投稿者の資格

- (1) 東アジア文化研究科もしくは文学研究科文化交渉学専攻の大学院生および修了生であること。
投稿に際して東アジア文化研究科専任教員の同意を必要とする。
- (2) 編集委員会の委嘱を受けたもの。

5 投稿原稿

- (1) これまで他の学術誌に掲載されていないもの、投稿時点で他紙に投稿中でないものに限る。
口頭発表を経たものは、その旨明記する。
- (2) 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わないが、特殊な印刷や翻訳については別途実費負担を求める場合がある。

6 掲載論文について

- (1) 東アジアにおける文化交渉研究に学術的に寄与しうるものとする。
- (2) 掲載原稿は編集委員の審査のうえ、採否を決定する。なお、編集委員は論文等の修正を求めることができる。
- (3) 掲載論文は指導教員による執筆時、及び修正の指導を受けることとする。

7 電子化による公開

『院生論集』に掲載された論文、資料等は、基本的にすべて、国立情報学研究所によって電子化・公開すること、関西大学学術リポジトリに登録することを承諾したものとする。

執筆要領

一、基本情報

(1) 内 容

東アジア文化交渉にかかわる論考、研究ノート、資料紹介、訳注、書評その他

(2) 使用言語及び字数

日本語：20,000字程度

中国語：20,000字程度

英 語：4,000語程度 17～18頁程度

その他の言語：事前に連絡すること

資料紹介、訳注、書評等についてはこの限りではない。

図表がある場合もなるべくこの範囲に収める。

(3) 要旨、キーワード、タイトル、氏名

① 英文による要旨を150語程度で書く。

また希望者は論文末に中文あるいはハングルで、要旨を加えることができる。

② 要旨のあとにキーワードを日本語あるいは英語で各4～5語つけ加える。

③ 論文タイトル及び執筆者氏名の英語表記を明記する。

④ 資料掲載許可等の著作権処理は投稿者が行い、申請するときは、国立情報学術研究所による電子化・公開についての許諾も得ること。

二、原稿の体裁

(1) 原稿は、プリントアウトした原本1部と電子媒体（word、pdf形式）を同時に提出する。

(2) 図表・画像は本文中に組み込まず、別ファイルを作成すること。ただし、打ち出し原稿に割り付け位置、図表・画像のキャプションの指示を行うこと。

三、原稿の書式

(1) 原則として、Word文書で作成すること。本文のフォントサイズは10.5ポイントとする。

(2) 注は脚注方式を採用。注番号は全角の「1, 2, 3…」の数字を使うこと。

脚注のフォントサイズも本文と同様に10.5ポイントとする。

(3) 文献に関しては参考文献リストをつけず、各論文の脚注のみとする。

(4) 分節化の符号として、章は一、二、三、節は1, 2, 3を使用すること。

なお、原則として冒頭は「はじめに」、文末は「おわりに」で統一する。

(5) 年の表記において、和暦と西暦を併記する必要がある場合は、「1911（明治44）年」あるいは「宣統3年（1911）」のようにし、本文中での表記は統一すること。

(6) 本文中の算用数字は半角とする。

(7) 資料の引用は本文に対して二字下げとする。ただし、ファイル上ではスペースを打ち込まず、インデント処理とする。

- (8) 漢字は現代仮名づかいにより、原則として常用漢字の範囲で書く。ただし、旧漢字を使用しなければならない場合はこの限りではない。外字に関しては、文書ファイルで■（黒い四角）を入力した後、打ち出し原稿に当該文字を朱書すること。
- (9) 欧米人の名前は文中での初出の際、「ウィルソン（Thomas Woodrow Wilson）大統領」のように、丸括弧の中に欧文原名を示す。

四、著作権

- (1) 『院生論集』に掲載された論文等の著作権は、著者及び翻訳者に帰属する。
- (2) 著者及び翻訳者は、院生論集への掲載をもって、関西大学大学院東アジア文化研究科に対して無償で著作物の複製権（著作権法第21条）及び公衆送信権（同法第23条）を許諾し、かつ、拠点が第三者に対してそれらの権利を再許諾することについて同意するものとする。

五、その他

審議を要する事項は、編集委員長が同委員会に諮り定める。

○原稿締め切り

期日までに投稿されなかったものは不可とする。査読を行ったうえで採否を決定します。

また、指定日までに氏名・学籍番号・指導教員・論文題名を下記のメールアドレスに送信し、投稿申請を行ってください。

○提出先

関西大学大学院東アジア文化研究科

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

以文館 4 階 東アジア文化研究科院生研究室 2 『院生論集』編集係

E メール：east.asian.culture2012@gmail.com

○提出方法

原稿の電子データを E メールに添付し、提出してください。

なお、打ち出し原稿をあわせてお届けください（詳細は「二、原稿の体裁」を参照）。

執筆者紹介

(掲載順)

喬	昭	(東アジア文化研究科 博士課程 後期課程)
陳	曉 淇	(東アジア文化研究科 博士課程 前期課程)
東	延 欣	(東アジア文化研究科 博士課程 後期課程)
李	曉 晗	(外国語教育学研究科 博士課程 前期課程)
沈	和	(東アジア文化研究科 博士課程 後期課程)
花	蕾	(外国語教育学研究科 博士課程 後期課程)
劉	存 軍	(東アジア文化研究科 博士課程 後期課程)
張	米 琪	(東アジア文化研究科 博士課程 後期課程)
劉	明 鎔	(東アジア文化研究科 博士課程 前期課程)
張	亞 敬	(東アジア文化研究科 博士課程 後期課程)
晉	誼	(東アジア文化研究科 博士課程 前期課程)
楊	雪	(東アジア文化研究科 博士課程 後期課程)
李	雪	(東アジア文化研究科 博士課程 前期課程)
張	天 皓	(東アジア文化研究科 博士課程 後期課程)

院生論集編集委員

委員長：楊 一 鳴

委 員：楊 雪・李 龍

著作権について

- 1) 本書に掲載された論文等の著作権は、著者及び翻訳者に帰属します。
- 2) 著者及び翻訳者は、本書への掲載をもって、関西大学大学院東アジア文化研究科に対して無償で著作物の複製権（著作権法第21条）及び公衆送信権（同法第23条）を許諾し、かつ、拠点が第三者に対してそれらの権利を再許諾することについて同意します。

※本書に掲載された論文等を、著者及び翻訳者の所属機関が、学術データベース等にて電子化・公開を希望される場合は、著者及び翻訳者にその許諾の可否をお伺いください。

文 化 交 渉
東アジア文化研究科院生論集
第 11 号

発行日 2021年11月30日
編 集 関西大学大学院東アジア文化研究科
発 行 ©関西大学大学院東アジア文化研究科
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
Eメール jeac@ml.kandai.jp
印 刷 株式会社 遊文舎